

「五感を揺さぶる豊かな自然に魅了された。」ので、

移住へのいきさつは？

「一 人の息子が恐竜や昆虫、生き物が大好きなことから、神流町の恐竜センターへよく遊びに来ていました。恐竜センターの脇を流れる神流川の川原に初めて降りた時、「こんなに気持ちのいい場所があるんだ」と感じました。五感が研ぎ澄まされたような感覚で、豊かな自然の中に身を置くことで、五感は育てられるというのを思い知らされました。こうした自然のある町で、子どもたちが幼少時代を過ごしたら、その経験は大人になっても心に残ると決めたと思います、神流町に移住しよう」と決めました。まずは、神流町での求人探しを始めました。神流川森林組合で事務職の求人があり、迷わず応募し、面接を受け採用していただき、今に至ります。

移住してよかったことは？

子どもたちは移住してきた日から、やりたい放題、走り回っています。虫かごには、トカゲ、ナナフシなど、ありとあらゆる生き物でいっぱいです。学校も楽し



いようで、いつもエネルギーに満ち溢れ、キラキラと輝いています。

町の教育委員会が主催する「神流自然楽校」で、地域の方から季節ごとの手仕事や体験を教えていただいています。失われつつある手仕事や体験は、未来の大人になる子どもたちにとって宝になると思います。また、地域や行政の方々と、顔が見える関係性が築けることも魅力のひとつです。

神流町での子育て環境は？

子どもたちは下校すると、私の職場に「ただいま」と帰ってきます。職場の方々は「おかえり」と迎えてくれます。地域の方々にも可愛がってもらっています。子どもたちが悪いことをすれば、何が悪いのかをきちんと教えてくれる。ここは、

愛のある地域だと感じています。これまで、あまり人に頼らないで生活をしてきたので、どこまで人に甘えてしまっていたのか分からず、最初は戸惑いました。今は、地域の皆さんに育ててもらうことに甘えさせてもらっています。

今後は？

先日、「森林セルフケアポーター」の認定を受けました。また、森林から出る廃材を利用した精油づくりにもチャレンジしています。今後は森林セルフケアポーターの活動や精油の商品化などを通して、愛をもって私たちを受け入れてくれた神流町に少しでも貢献したいと思っています。

上野村に来たきっかけは？

出 身は埼玉県さいたま市です。大学卒業後、福島県や岩手県の木材業界で働きながら、副業で木工品を制作していました。もともと、いつかものづくりをしたいという思いがありました。陶芸家の祖父の影響で器が好きだったことに加え、木材業界で働いて得た知識を生かし、木工ろくろや挽物を学びたいと考えていました。

ユーチューブにアップされていた上野村の今井挽物工芸社の作業動画を見て、この技術はすごいと思ったのが、上野村を知ったきっかけです。同時に、インターネットで上野村の地域おこし協力隊が木工部門を募集しているのを知り、上野村に見学に来ました。そこで、今井挽物工芸社の今井正高さんの下で木工を学べる見通しが立ち、正式に応募。2020年4月から地域おこし協力隊として移住しました。

今井さんの下で学ぼうと思ったのは？

木工産地では、丸太を切る人、穴を開ける人、仕上げをする人、塗る人と、工程が分業化されているのがほとんどで

移住を考えている人へ

地域おこし協力隊制度を利用して移住することを考えているのであれば、移住する前に「やりたいこと」を明確にしておいた方がいいと思います。地域おこし協力隊の活動期間は3年。移住してからやりたいことを探しては、見つけた頃に期限が終わってしまうことでもあります。独立や起業など、活動期間を終えた先のことも想像しておく方がいいと思いますね。

今後は？

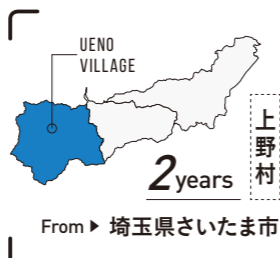
3年の活動期間を終えると同時に、独立を考えています。今は独立するためスキルを身に付けながら、作品の販売ルートの確立を目指しています。独立後、一人前の木工作家として暮らせるようになったら、今度は、自分が若い人たちに木工技術を教えていきたいと思っています。



Profile

山田 美香さん

2020年4月、前橋市から移住。小学4年の悠惺君と小学2年の愛惺君との3人暮らし。美香さんは、神流町を含む奥多野地方の郷土料理「つとっこ」づくりに参加するなど、神流町の郷土料理や文化にも興味がある。



Profile

逢見 祥平さん

2020年4月、地域おこし協力隊として上野村へ。挽物技術習得に励みながら、自身の工房「ヨハク木工舎」で製造した暮らしに寄り添う「木のうつわ」をHPやクラフト市などのイベントで販売している。



「伝統的な挽物技術を学び『木のうつわ』をつくりたかった。」ので、

リアルなライフ

一括りに「移住」といっても、働き方も暮らし方も楽しみ方も、人それぞれです。

「たのふじおか」で見つける、自分らしい暮らし。

就職型・創業型・半農半X型・二拠点生活型・地域貢献型。

あなたは、どのタイプが理想ですか？

就職型

住んでみたい場所で職を探し、地域に関わりながら、自分らしく仕事をする暮らし。



創業型

地方に移住し、独立や起業など、新たなチャレンジをしてスタートさせる暮らし。



地域貢献型

「地域おこし協力隊」は、2009年度から総務省がスタートさせた制度。1~3年以下という決まった期間地方に移住し、地方自治体の委託を受け、地域の問題解決や発展のための活動を行う。



半農半X型

半農半Xとは、半分農業、半分別の仕事=Xを持つ生き方のこと。Xに当てはまることは、人それぞれで異なり、社会と関わりながら、自分の好きなこと、やりたいことを、農業を営みながら行う暮らし。



二拠点生活型

二拠点生活とは、二つの地域に拠点をもち、行き来して生活すること。例えば、平日は都市部で暮らして働き、週末は田舎暮らしでリラックスするというライフスタイルのこと。



[tanofuji Life]



「人と自然をつなぐ
架け橋になりたかった。」ので、

上野村に来たきっかけは？

一般社団法人上野村産業情報センターへの就職を機に、上野村に移住しました。私は東京生まれの東京育ち。でも、子どもの頃から人混みや大きな建物、殺伐とした都会の雰囲気が苦手。大きくなったなら、自然の中で生きていこうと思っていたほどです。農業高校を経て、北海道にある自然環境を全般的に学ぶ大学に進みました。そこで、改めて、人と自然をつなぐような仕事に就きたいと思うようになりました。

就職活動をしている中で、上野村産業情報センターの求人を見つけ、そこで初めて上野村の存在を知りました。私がやりたいことと、仕事内容が似ていることもあり興味があり、上野村の雰囲気を見に行きました。それまでも、求人のある地域に出かけ、地域の人々から話を聞くことを心掛けていました。少し閉鎖的な雰囲気の地域が多いと感じていたのですが、上野村にいたっては、ウェルカムな雰囲気。「東京からよく来たね」と声をかけてもらうほどで、村の人たちのフレンドリーで温かな人柄にたちまちひかれてしまいました。知らない場所で社

会人一年生となる不安も吹き飛び、産業情報センターの求人に応募。ご縁があって内定をいただきました。

上野村の魅力はどんなところ？

地域の人の温かさ・優しさです。上野村に来て約2年になりますが、最初に感じたウェルカムな雰囲気はそのままで、地域の方との交流が深まり、より温かな人柄に触れる機会が増えました。地震があった時には、「大丈夫？怖かったら家においで」というショートメッセージが届くことも。気にかけてもらっていることがうれしいです。地域の人々に見守られ支えられているように感じています。

これからの移住者へ

行ってみたいと、分らないこともあるので、移住したいと思った地域には、遊び感覚でもいいので必ず1回は行ってみるのが大事だと思います。また、マインナスなことばかり考えないことも重要です。私自身もそうでしたが、知らない土地に行くのだから、不安に思うのは当たり前ですが、不安だったことも、行ってみたら変わるかもしれないし、楽しいこともたくさんあるかもしれません。マインナスに目を向けるのではなく、楽しむことが一番です。



Profile

岩佐 純佳さん

2020年、就職を機に上野村に移住。上野村産業情報センターで観光案内のほか、森林浴ツアーや木工体験などを担当し、上野村の自然のすばらしさを紹介している。休日は、前橋市や高崎市に出かけ、映画やショッピングを楽しんでいるそう。



◀ 次ページでは、「たのふじおか」の魅力にひかれ、移住を実現した4人のリアルなライフスタイルを紹介します。